

## 単収 240kg 以上、2等級以上比率 50%以上を目指して 適期防除と干ばつ防止で収量品質向上

### 1 生育及び作業状況

- 6月第1半旬に好天日が続いたことで耕起・播種作業はおおむね順調であった。
- 播種後の適度な降雨により、全体的に出芽は良好であった。
- 播種日の早いほ場では適期に1回目培土が実施された。

### 2 排水・湿害対策 ----- 梅雨明けまで

- 梅雨明け（平年：7月24日）までは、大雨による浸水・湿害対策を実施する。
  - 明渠に「つまり」や「破損」がないかチェックし、確実に排水路につなげる。
  - 畝間を明渠に連結させる。
  - 暗渠栓、水尻を開放したままにする。
- 湿害による葉の黄化や生育不良の症状が見られた場合、排水を促した後、速効性肥料を窒素成分で2～3kg/10a追肥し、培土する。

### 3 雑草対策 ----- 中耕・培土と除草剤散布

- 2回目の中耕・培土を確実に行う。
  - 実施めやす：本葉5枚目展開頃、主茎長（地際から）20～30cm位、播種後30～40日頃
  - 断根による生育抑制・落花・落莢を防ぐため、開花始めまでに終える。
- 降雨の影響で中耕・培土できず、雑草が抑えられない場合は、生育期処理除草剤（下記）を適正に使用する。
  - 全面散布できる茎葉処理除草剤（イネ科用除草剤、広葉用除草剤がある）
  - 畦間散布用の非選択性の茎葉処理除草剤（大豆にかからないように注意！）
  - 畦間・株間散布用の茎葉兼土壌処理除草剤
- 帰化アサガオ類が発生している場合は、除草の徹底と被害拡大防止に努める。
  - 大豆の5葉期以降、早めにバスタ液剤を畦間・株間散布する。  
（大豆にかからないよう注意！）
  - 中耕・培土を確実に行う。
  - 残った場合は手取り除草を行う。
  - 次年度も除草剤散布、中耕・培土、手取り除草を組み合わせた体系防除を行う。

帰化アサガオ類の除草はタイミングが成否を分けます。  
つる化する前（帰化アサガオ類の発芽後、2～4週以内）に実施しましょう。

## 4 干ばつ防止対策 ----- 水分ストレスを防止し、収量・品質向上へ

開花期以降に干ばつに遭うと . . . . .

落花・落莢  
光合成量減少  
根粒の活性低下で窒素吸収減少

莢数・粒数の減少  
しわ粒発生増加  
成熟ばらつき(莢先熟)

減収  
品質低下

### ○暗渠栓を閉じる。

- 無降雨が続く、ほ場の乾燥が懸念される場合は、暗渠栓を閉め、地下水位を維持する。ただし、降雨があった時はただちに暗渠栓を開放し、排水に努める。

### ○周囲明渠や畝間を利用してかん水する。

<かん水できるほ場条件 = 排水の良いほ場>

- 1日以内に地表水が排除できること

<かん水時期のめやす>

- 開花期以降に高温・少雨で晴天が2週間以上続きそうな場合
- 条間の土が白く乾き、最頂葉の小葉の50%以上が直立した場合 (写真)



写真 かん水のめやす

<かん水の手順>

- 夕方涼しくなってからかん水し、ほ場全体に行き渡ったらすぐに排水する。
- 大区画ほ場では数日に分けてかん水する (水口付近の湿害防止)。

## 5 病虫害防除――葉焼病、ウコンノメイガ、紫斑病、マメシクイガ

○葉焼病――里のほほえみで開花期頃(7月下旬頃)に発生が確認されたら防除する。

○ウコンノメイガ(ハマキムシ)――播種日の早いほ場、葉色の濃いほ場で発生しやすい。

- 7月下旬で1株平均2つ以上の「葉巻」が確認された場合は防除が必要。
- 「葉巻」の発生初期(7月下旬～8月上旬頃)が防除適期。

○紫斑病――防除適期は開花期3～5週間後(4週間後が最も効果が高い)。

- 薬剤は2回散布を基本とするが、アミスター20フロアブル、アミスターレボソN SEについては、1回のみ散布とする。
- 開花4週間後の防除は、殺虫剤との同時防除とする(アミスターレボソN SEは殺虫成分も含むため、本剤のみ散布で可)。

○マメシクイガ――連作ほ場や前年に多発したほ場で発生しやすい。

- 連作等で例年多発生しているほ場では、8月下旬と9月上旬の2回防除とする。(1回散布のみの薬剤もあるため、農薬のラベルをよく読んで使用する)

薬剤防除時期 (標準的な生育の場合)	7月下旬頃 (葉巻発生初期)	8月中旬頃 (開花3週間後)	8月中下旬頃 (開花4週間後)	8月5半旬 (開花5週間後)	8月6半旬～ 9月2半旬 *1
対象病虫害	ウコンノメイガ (必要に応じて)	紫斑病	紫斑病、フタスジヒメ ムシ等子実害虫	紫斑病	マメシクイガ等子害 虫、食葉性害虫
紫斑病1回防除の場合	(殺虫剤)		殺菌剤, 殺虫剤 *2		殺虫剤
紫斑病2回防除の場合	(殺虫剤)	殺菌剤	殺菌剤, 殺虫剤 *2		殺虫剤
紫斑病2回防除の場合	(殺虫剤)		殺菌剤, 殺虫剤 *2	殺菌剤 *3	殺虫剤 *3

\*1: 薬剤により防除適期が異なる。

\*2: フタスジヒメムシの発生密度が低く推移した場合には、本種対象の殺虫剤散布は省略可能。

\*3: 標準より開花期が遅れる等で防除時期が近接した場合は、殺菌剤と殺虫剤の散布を1回にまとめてよい。

**農薬の使用にあたっては、ラベルに記載の使用基準や注意事項等をよく読み、遵守して使用しましょう!**